



# JAPIC NEWS

September  
2020  
No. 436

9

## contents

### ■ 巻頭言

#### コロナに想う

一般社団法人静薬学友会 会長 静岡県立大学 客員教授/ 安倍 道治 ..... 2

### ■ インフォメーション

医薬品集 発刊のご案内 ..... 4

JAPIC「医療用医薬品集 2021」CD-ROM付 9月4日発刊

JAPIC「一般用医薬品集 2021」9月4日発刊

JAPIC「医療用医薬品集 薬剤識別コード一覧 2021」8月31日発刊

JAPIC「医療用医薬品集 2021」更新情報メールサービス(無料) 申込受付開始

### ■ トピックス

JAPICサービスの紹介 - 医薬品情報に関するデータベース -

② iyakuSearch/iyakuSearch Plus (医薬品情報データベース)

① 医薬文献情報 ..... 5

### ■ コラム

国内外の規制措置情報: Japic Daily Mail、Japic Weekly Newsから  
～新型コロナウイルス関連情報～

(一財)日本医薬情報センター 医薬文献情報担当 酒井 彩美 ..... 6

くすりの散歩道No.138「スポーツの秋ですね」

(一財)日本医薬情報センター 医薬文献情報担当 高橋 晴香 ..... 9

■ 外国政府等の医薬品・医療機器等の安全性に関する規制措置情報より(抜粋) ..... 10

■ 図書館だより No.362 ..... 11

■ 情報提供一覧 ..... 11

**JAPIC**  
Japan Pharmaceutical Information Center

一般財団法人 日本医薬情報センター

## コロナに想う

一般社団法人静薬学友会 会長  
静岡県立大学 客員教授

安倍 道治 *Abe Michiharu*



これまで、厚生労働省での勤務が30年、そのあと、ご縁があって企業に身を置き10余年、ゆっくり考える時間もなくなり、あっという間に時が過ぎ去った感がする。

特に、公務員時代は、仕事にかまけて子育ては妻に任せっきり、父親としては、失格だったに違いない。ゆとりができた今つくづく思う。その反動か孫にはすこぶ甘い。

公務員時代を振り返ると、一番印象に残った仕事は、医薬分業と薬剤師6年制への取り組みである。幸い、入省後5年目にしてジュネーブにある世界保健機関（WHO）に出向する機会を与えられ、スイスの薬局の実態を目の当たりにした時の衝撃は今でも脳裏を離れない。このことが、私のその後の人生に大きな影響を与えた。薬剤師6年制もしかりで、当時大反対をしていた文科省とは、激論を交わすとともに、日本薬学会では、当時の上司である課長ともども名指しでA級戦犯とも揶揄されたこともあった。しかしながら、逆境に立たされた時こそ好機と考え、粘り強く関係者と交渉を重ね、結果的には、多くの方々の努力により医薬分業は進展し、6年制も実現した。終始、是々非々で取り組み、これらの実現に少しでも貢献できたことは、公務員冥利に尽きるというものである。

公務員退職後は、製薬企業にお世話になった。規制する側と真逆な立場に立つと、かつての職場の足元がよく見えるものである。ここでも、霞が関は審査のプロ集団、それに対し、こちらは開発のプロ集団、お互いが成長するためにも堂々と科学的な論戦をかわすようにと社員を叱咤激励する日が続いた。

いま、振り返ってみると、これまで何とか人並みに仕事と対峙することができたのは、体力、信念、判断力などの基礎を培ってくれた母校の大学のおかげであり、また、そこで得た友であり恩師でもある。その有り難さ

をあらためて思い起こし、残りの人生はおまけと考え、微力ながら母校に恩返しをすることとした。現在、静岡との間を行き来し、同窓会のお世話をしている。まず、手掛けたのは、同窓会を社団法人化する仕事であった。その後、昨年より寄付講座を創設し、各界で活躍している卒業生を講師として招聘し、体験談を交え生きた薬学を学生に講義することで自身の将来を身近に感じてもらうこととした。今後の課題の一つは、年会費に依存する体質からの脱却である。将来は、定款で可能となる収益事業も視野に会の運営の安定化を模索したい。

さて、新型コロナウイルス感染症が連日紙上をにぎわしているが、閑話休題、ウイルスについて私見を交えて触れてみたい。

20世紀以降のウイルスによるヒトへの脅威はスペイン風邪に始まりAIDSやエボラ出血熱、それに、新型インフルエンザ、SARS/MERSと枚挙にいとまがない。

このことは、地球環境の変化、特に18世紀後半から始まった産業革命により、科学技術が著しく発達し、その結果膨大な化石エネルギーが消費され、二酸化炭素が大気中に拡散し、温暖化などを引き起こすこととなったほか、大規模な開発による地球環境の悪化が生態系に影響を及ぼし、野生動物とヒトの暮らす空間が近づくことで、ウイルスがヒトに伝搬しやすくなったと言われている。又、これらの地球環境の変化に加え、急速な人口増加や輸送機関の発達もウイルスの感染拡大に役買っているとも言われている。

すなわち、地球環境の変化が地球生体系に大きな影響を与え、今まで、静かに生活していたウイルスが生活環境を侵されることにより、クラスターやエピソードを引き起こし、さらには、地球規模のパンデミックを引き起こしていると考えるのが自然ではないかと思う。生物進化の頂点にいるという、正に奢れる人類に対するウイルスの逆襲であり、警鐘ともとれる。

さらに、地球誕生の太古に想いを巡らせれば、46億年前に地球が誕生し、さらに30億年前にはRNAワールド、続いてDNAワールドという生命の原点が誕生し、ウイルスは地球に存在したと言われる。これに対して、人類の誕生は、400万年前に人類の祖先がアフリカに現れ、現在の人類ホモサピエンスが出現したのは20万年前と考えられている。このように、人類誕生よりとてつもないはるか以前からウイルスは存在し、ウシ、ブタ、ネズミなどに寄生し、人類が農耕生活を開始するようになって、家畜と接触する機会が増え、動物のウイルスからヒトに感染し、ヒトの進化とともにウイルスも人に適応して、ヒトの間で広がるようになったと言われている。

ウイルスは、それほど太古の時代に誕生したが、自己増殖能を持たないものの他の細菌などの生物に寄生して巧みな技で今日まで生き抜いてきたものであり、究極の寄生性微生物といえる。ウイルスは、地球上の生物の進化に情報屋として、想像を超える影響を与えてきており、正に、ウイルスの存在無くして、今の生物の生態系を維持することは不可能であったとも言えるのではないだろうか。家畜を介してヒトに感染を引き起こす厄介なウイルスに焦点が当たりがちだが、大きな目で見ると、ウイルスが生物の進化と生態系の調節を促してきたともいえる。言い換えれば動物にとってウイルスは単に感染するものではなく、進化に影響を与えてきた役割も持ち合わせているものといえよう。

話題を本題の新型コロナウイルス感染症に移そう。

新型コロナウイルスの感染拡大が止まらない。武漢に始まり世界中に猛威を振っているこのウイルスは、インフルエンザウイルスと違い、夏場となっても、一向に収束の目処が立たない。正に、人類を嘲笑うかのよう、したたかに生き抜こうとしているのがこの新型コロナウイルスの特徴と言える。

そもそも、ヒトに感染するコロナウイルスには、昨年までに明らかとなったものとして、既に風邪としてヒトに蔓延している4種類と動物から感染する重症肺炎ウイルスの2種類が存在していた。前者は風邪の流行期の30%程度はこの穏やかなウイルスが原因とされている。後者は、2002年に中国広東省で発生した、重症急性呼吸器症候群コロナウイルス(SARS-CoV)であり、他の一つは、2012年にサウジアラビアで発見された、中東呼吸器症候群コロナウイルス(MERS-CoV)である。これに対して、昨年末に武漢で発生した新型コロナウイルスはSARS-CoV2というもので、知人の専門家の言葉を借りれば、命名のとおり、ウイルス学的には、新型コロナウイルスというよりもSARSウイルスの変異したものというのが科学的にはより正確な表現とのことである。

いずれにしても、インフルエンザウイルスと異なり、コロナウイルスの感染症の患者は、無症状か軽度の症状を示す感染の初期段階に、大量のウイルスを排出する

ことが明らかになった。そこにはウイルスのような感染症と戦う体内の自然免疫を破壊する新型コロナウイルスの狡さがあるようだ。これが、感染者の無症状につながっているとされている。特に、若者に感染した場合、無症状や風邪の初期症状程度で済んでしまう人が多くいるとみられ、この人達が感染源となり、老人や高血圧症、糖尿病などの持病のある方などに感染すると一部が重症化することからとても厄介なウイルスといえる。

又、RNAウイルスに特徴的であるように、容易に変異を繰り返すので、ワクチンを開発するにしても、コロナウイルスに共通で変異を起こさないウイルスタンパクを抗原とするなどの特別な配慮が必要であるとのことである。さらに厄介なのは、ワクチンによっては、体内に作られた抗体がウイルスの細胞内へ取り込みを促し、かえって生体による過剰な免疫反応を惹起して、サイトカインストームのような症状を引き起こす恐れもあるとのことである。目下世界的規模で熾烈なワクチン開発が行われているが、優れた効果があり、安全性の高いワクチンの創製を期待したい。他方、治療薬の開発も急を要する。今は、新型コロナウイルスについて未知の部分が多いので、とかく人は不安に駆られ過剰反応を示すが、要は、重症の患者をできるだけ増やさないようにする治療薬が開発されることを望む。

人類が快適な生活を得るために地球環境の破壊という大きな代償をもたらし、その結果として、ウイルスや普段悪さをしない未知の細菌からの逆襲をうけているとすれば、人はもっと謙虚にならなければいけないと思う。地球上に生きとし生ける生物は相互に依存している。ウイルスはヒトの進化にも多大な影響を与えてきたものである。

この新型ウイルスの出現は、人類が、新しい地球全体の生態系とともに生存する道を選ぶかどうか、まさに人類の英知が問われていると思うが、考えすぎであろうか。



## 医薬品集 発刊のご案内

### JAPIC「医療用医薬品集2021」CD-ROM付 9月4日発刊

- ◇6月19日付の後発品薬価収載、6月25日入手分までの情報を収載（約21,000製品）。
- ◇医療用医薬品添付文書情報を有効成分（約2,300成分）ごとにまとめて掲載。約1,400成分については「構造式」も掲載。
- ◇同一成分内での剤形の違い・製品の違いにより効能・効果が異なる場合はその違いを明記。
- ◇3分冊（分冊1：五十音索引+本文前半、分冊2：五十音索引+本文後半、分冊3：その他索引+付録+薬剤識別コード一覧）でのご提供。

◆価格：13,000円（+税）・B5判 〈お問合せ先：事務局 渉外担当 TEL：0120-181-276〉



### JAPIC「一般用医薬品集2021」 9月4日発刊

- ◇国内流通の一般用医薬品、約10,500製品を収録（2020年7月までの一般用医薬品情報を収録）。「要指導医薬品」（スイッチ直後品目・劇薬等）も掲載しています。
- ◇最新の添付文書を日本製薬団体連合会の委託を受け収集。国内流通の一般用医薬品をほぼ全て網羅。医薬品製品ごとのリスク区分を本文（製品説明部分）及び50音索引に掲載。
- ◇付録：一般用医薬品のリスク区分一覧（成分）・ブランド名別成分比較表・国内副作用報告の状況・重篤副作用疾患別対応マニュアル（一部）を収録。

◆価格：9,000円（+税）・B5判 〈お問合せ先：事務局 渉外担当 TEL：0120-181-276〉



### JAPIC「医療用医薬品集 薬剤識別コード一覧 2021」 8月31日発刊

- ◇識別コードから薬剤の商品名を調べられる一冊。医療用医薬品集掲載の医薬品のうち添付文書に識別コード・包装コードの記載のある品目を掲載。
- ◇掲載項目は識別コード、色・割線、商品名（会社名）、一般名、規格単位、薬効からなり、医療用医薬品集本文の掲載ページも記載。
- ◇薬剤識別コードの数字順、英字順、マーク順に配列。

◆価格：1,000円（+税）・B5判 〈お問合せ先：事務局 渉外担当 TEL：0120-181-276〉



### JAPIC「医療用医薬品集2021」更新情報メールサービス（無料） 申込受付開始

- ◇JAPIC「医療用医薬品集2021」CD-ROM付をご利用のユーザー様を対象に、収録内容の更新情報を無料でご提供するサービスです。
- ◇新薬・その他重要な改訂（効能効果・用法用量・禁忌・重大な副作用等）等の情報を追加した医薬品集項目のPDFをwebサイトで閲覧・ダウンロードが可能です。

#### 《ご利用方法》

登録フォーム（URL：<https://www.japic.or.jp/iryu2021.html>）に必要事項を入力し、お申込み下さい。  
ご登録頂いたメールアドレスに、更新情報を公開しているwebサイトのURLを毎月送信いたします。  
配信期間は2020年9月～2021年5月を予定しています。



# 国内外の規制措置情報： Japic Daily Mail、Japic Weekly Newsから

## ～新型コロナウイルス関連情報～

(一財)日本医薬情報センター 医薬文献情報担当

酒井 彩美 *Sakai Ayami*

JAPICでは、国内外の規制措置情報を配信するサービスJapic Daily Mail (JDM)、Japic Weekly Newsを提供しております。全世界で蔓延している新型コロナウイルスに関連する、国内外（特に海外）の規制当局が発信した規制措置情報について、JDMおよびJapic Weekly Newsで提供した記事をご紹介します。今回ご紹介いたしますのは2020年7月末時点の情報となりますので、最新の情報をご確認ください。

### Japic Daily Mail(JDM)とは

国内外の規制当局等が発信する、医薬品等に関する最新の安全性措置情報を提供しています。情報収集源は、WHO、米国、英国、EU、カナダ、スイスなどの海外の規制機関及び日本の規制当局等で、ホームページを毎日チェックしています。

情報の種類は、医薬品（サプリメント等も含む）、医療機器、再生医療等製品、体外診断薬、コンビネーション製品を対象とし、有害事象、副作用、不具合等に関する通知、表示改訂、回収情報等、安全性に関する措置情報となります。

該当原文のURLと共に日本語概要をつけて毎日（営業日）提供しております。情報源の言語は英語のみでなくドイツ語、フランス語等もございしますが、日本語概要により情報が容易に把握できます。

JDMは、主に製薬企業を対象とする、医薬品等の安全性情報の収集の支援を目的としたサービスとなっております。

### Japic Weekly Newsとは

「JAPIC Daily Mail」の中から記事を抜粋し、主として医療機関ならびに医薬教育機関向けに再録し、週1回（木曜）にメールにて提供しています。JAPIC会員様は無料でお申し込みいただけます。

新型コロナウイルスについては、日本では、主に「新型コロナウイルス」という名称が使われておりますが、海外では「COVID-19」を採用していることが多いので、海外における情報を検索する際はCOVID-19をキーワードとすることをお勧めいたします。他にもJDMおよびJapic Weekly Newsで提供した記事で認められた新型コロナウイルスに該当する表記がございますので、以下にご提示いたします。

「COVID-19」または「coronavirus disease 2019」（疾患名）

「SARS-CoV-2」または「Severe acute respiratory syndrome coronavirus 2」（正式なウイルス名）

「2019-nCoV」または「2019 Novel Coronavirus」（一時的に使用されていたウイルス名）

新型コロナウイルスに関連して、不確かな情報がSNS等を中心に拡散していますが、当局が発信した正確な情報から真偽を判断することが重要になります。特に治療法についてはデマとみられる情報も多く存在しています。規制当局が発表する規制措置情報には、医薬品の適正使用、安全性情報が含まれますので、判断材料として適しています。有効性が認められていない医薬品の投与は患者の健康を害するため、そのような情報も安全性情報として扱われます。さらに、日本の規制当局では取り上げられていなくても、海外の規制当局からは発信されている情報もあります。

これまでに、新型コロナウイルスに関して海外規制当局が発表した、巷で話題になっている真偽不明な治療法に対する当局の見解、新型コロナウイルスの臨床試験に関する安全性情報や当局が取り締まった偽造薬、不正販売などの情報のうち主なものを以下の表にご提示いたします。なお、和文の記事タイトルや内容はJDMおよびJapic Weekly Newsで提供した記事から抜粋いたしました。

国(機関)	記事タイトル(和訳) およびJDM記事抜粋	当局掲載日
豪 (TGA)	「COVID-19の管理において、静注高用量vitamin Cを支持するエビデンスはない」	2020.3.23
米 (FDA)	「コロナウイルス(COVID-19)に関する更新情報:米FDA, COVID-19を治療または予防すると主張する危険なchlorine dioxide製品を販売した販売業者に警告」	2020.4.8
日本 (PMDA)	「BCGワクチン接種に関するお願い(第二報)」 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)に対するBCGワクチンの予防効果を期待して、適応外使用の事例が散見されるようになった。BCGワクチンの効果・効果は「結核予防」であり、「結核予防」以外の使用に対する有効性・安全性は確立していない。	2020.4.9
米 (FDA)	「動物用ivermectin:利害関係者への文書—ヒトのCOVID-19治療に使用しない」 実験室におけるivermectinのSARS-CoV-2(COVID-19を引き起こすウイルス)に対する有効性に関する論文の発表後、ivermectinの認知度が高まった。特定の動物種においてのみ安全性と有効性を評価しているため、ヒトに対して動物用医薬品を決して使用しないこと。	2020.4.10
仏 (ANSM)	「nicotine代替品:特に非喫煙者におけるリスクに警戒」 nicotine代替品(nicotineパッチ等)は、コロナウイルス感染症の予防や治療のために服用すべきではない。最近発表されたデータにおいて、コロナウイルス感染者の中に喫煙者の割合が少ないことが示された。現段階では、この結果はnicotineがCOVID-19疾患に対する保護効果を有すると結論付けることはできない。	2020.4.24
米 (FDA)	「コロナウイルス(COVID-19)に関する更新情報:米FDAは、chloroquinおよびhydroxychloroquineのemergency use authorizationを取り消した」 COVID-19の治療に対する使用において、chloroquineおよびhydroxychloroquineが有効である可能性が低いと判断した。さらに、現在発生している重篤な心臓の有害事象等を考慮した場合、ベネフィットはリスクを上回らない。	2020.6.15
豪 (Department of Health)	「Australian Health Protection Principal Committee(AHPPC)によるdexamethasoneの使用に関する無作為試験の結果についての暫定的な報道に対する声明」 COVID-19入院患者の管理における使用に関する無作為試験の結果について、研究者は、人工呼吸器をつけている患者、および酸素を必要としている患者の死亡率は有意に減少したが、軽症疾患については当てはまらなると報告した。	2020.6.17
英 (MHRA)	「英MHRAによると、コロナウイルス(COVID-19)検出用とされる体温スクリーニング製品を信用してはならない」 英MHRAは、サーマルカメラの製造業者やサプライヤーに対し、COVID-19の診断と直接関連する広告を行ってはならないと通知している。	2020.7.3
米 (FDA)	「コロナウイルス(COVID-19)に関する更新情報:米FDA, methanolを含む危険なアルコールベースの手指消毒剤から消費者を保護し、警告するための措置を講じる」	2020.7.2
カナダ (Health Canada)	「健康リスクをもたらす可能性のある特定の手指消毒剤のリコール」	2020.7.27



2020年3月に、NSAIDと新型コロナウイルス感染症悪化の関連について海外で報告されているとのニュースがありました。その件に対する各国の規制当局の反応をJDMにて提供しておりましたので、当時の記事のうち掲載日が最も早いものをご提示いたします。他にも医薬品がCOVID-19に対し悪影響を与えるか否かの情報やCOVID-19の血液製剤への影響に関する情報が海外規制当局から発表されております。

国(機関)	記事タイトル(日本語)およびJDM記事抜粋	当局掲載日
EU (EMA)	「News and press releases:EMA,COVID-19における非ステロイド性抗炎症薬の使用に関して勧告」 ソーシャルメディアにおいて,ibuprofenなどのNSAIDsがCOVID-19を増悪させる可能性があるか否かについて疑問を提起する報告を認識している。現在のところ,ibuprofenとCOVID-19の増悪との関係を確立する科学的証拠は存在しない。COVID-19における発熱あるいは疼痛の治療を開始する際に,paracetamolやNSAIDsを含めたとすべての入手可能な治療選択肢を考慮すべきである。	2020.3.18
EU (EMA)	「最新データは,COVID-19のパンデミック期間中のアンジオテンシン変換酵素(ACE)阻害薬とアンジオテンシン受容体拮抗薬(ARB)の使用の継続を支持している」 Severe acute respiratory syndrome coronavirus 2(COVID-19の原因となるウイルス)への感染リスクに対するこれらの医薬品の影響は認められていない。	2020.6.9
米 (FDA)	「COVID-19パンデミックについてのヒト細胞,組織,細胞または組織由来製品(HCT/P)施設に関する更新情報」 呼吸器系ウイルスは一般に,ヒト細胞,組織,細胞または組織由来製品(HCT/P)の埋め込み,移植,注入により伝播しないことが知られている。これまでにこれらの製品を介してCOVID-19の伝播が報告された事例はない。	2020.7.2

規制当局が発信する情報の種類や頻度は状況により変化いたします。例えば、6月まではchloroquineとhydroxychloroquineの情報が頻繁に発出されましたが、以降は減少しています(4月13件、5月6件、6月10件、7月3件)。6月には主要医学雑誌に掲載されたCOVID-19とhydroxychloroquineなどの医薬品に関する論文の取り下げが生じています。6月からは、米国やカナダから発出される、メタノール等で汚染されたアルコール消毒剤や許可されていないエタノールを含むアルコール消毒剤に対する注意喚起の記事が多く見られるようになりました(4月0件、5月0件、6月9件、7月20件)。

JDMおよびJapic Weekly Newsで提供した新型コロナウイルス関連の記事をご紹介させていただきました。各国の規制当局が発信する情報にご注目ください。



# くすりの散歩道

NO.138

## スポーツの秋ですね

(一財)日本医薬情報センター 医薬文献情報担当

高橋 晴香 Takahashi Haruka



さて、季節はあっという間に過ぎ、9月です。オリンピックは延期となり、コロナウイルスの影響で外出を控えるなど、明るくない話題が続いていますが皆様いかがお過ごしでしょうか？

私はスポーツジムが再開されてから、週に1、2日程度、軽めのトレーニングを始めました。マスクをつけながらのトレーニングは酸欠になりそうで辛いです、普段よりこまめに休憩をとるなどして工夫して日々過ごしています。

感染しないよう気を付けながら、自己の健康管理を今まで以上に気にしなければならぬ生活になり、今後も付き合っていかなければならぬなりましたと思います。皆様はどのように健康管理を徹底されていらっしゃいますか。相談できる身近な人はいらっしゃいますか。

コロナ社会において、これまで以上に身近な健康相談相手の需要は高まっているかと思えます。

今回は身近な相談相手、薬剤師について、その中でも何年前かにオリンピックボランティアの薬剤師募集要項に「スポーツファーマシスト」という項目がありましたが、その「スポーツファーマシスト」に焦点を当ててお話ししてみようと思います。

まずスポーツファーマシストについて簡単に説明しますと、スポーツファーマシストとは、(公益財団法人)日本アンチ・ドーピング機構(JADA)が定める所定の課程(アンチ・ドーピングに関する内容)終了後に認定される「最新のアンチ・ドーピング規則に関する知識を有する薬剤師」を指します。医薬品の情報提供に加え、啓発活動等を行っており、2020年4月1日時点での認定者は10,211名いらっしゃいます。<sup>※1</sup>

インターネットでは実際にお住いの近くにいるスポーツファーマシストを検索することも可能です。

そこで最も私たちが話しやすいと考えられるドラッグストアの薬剤師について検索すると、あくまでインターネットに情報を掲載することに賛同を得た薬剤師のみが掲載されているとはいえ、全国に78名、東京都には7名という結果でした。県によってはヒットしないところもありました。(2020年8月3日時点)<sup>※2</sup>

掲載されている人数に限られているとはいえ、いざ相談したいときに処方箋もいらない、夜遅くまで営業

している、一番ハードルが低く会うことができるドラッグストア勤務のスポーツファーマシストを検索したとき、これだけしかヒットしないのには驚きでした。

例えば国体選手や、プロではないアスリートでもドーピングに気を使わなければならない状況があるかと思えます。実際に自分が薬学生の頃、実習先の薬局で国体選手が風邪薬をもらいにいらっしゃいましたが、禁止薬物に該当する成分が含まれていたため、処方を変更していただいた経験があります。たかが風邪薬と言えど、選手であればもちろん気にしなければ処分になってしまうこともあるため、気を付ける必要があります。そういったことに対して気づくことができる知識を持つのが薬剤師です。

またそこまでしっかりスポーツをやっていないくても、「フェアプレー」を考えると、できれば薬の使用について考えたいものです。

そんなとき、やはりドラッグストアの薬剤師でも詳しい方が増えると、気軽に相談できるようになると思います。もちろん薬局に聞きに行くことも全く問題ありませんが少々行きにくさはあると思います。自分も相談するならドラッグストアの薬剤師さんの方がお世話になると思うからです。

認定の流れについてみてみると、資格対象者に年齢制限などはなく、「基礎講習会の受講時点で薬剤師の資格を有する者」とありましたので、今後有資格者が増えると良いですね。

この私の独り言をきっかけに薬剤師の方はスポーツファーマシストに興味を、そうでない方は健康相談相手に薬剤師さんという選択肢が増えると嬉しく思います。

スポーツの秋とは言いますが、まだまだ暑さが厳しく体調管理が難しい季節。

コロナ社会で自己健康管理をするにあたって、誰を相談相手に選ぶのかこれを機会に考えてみてはいかがでしょうか？

(出典:※1:公益財団法人 日本アンチ・ドーピング機構 JADA, <https://www.sp.playtruejapan.org/acquire/index.html> (参照:2020年8月3日))

※2:スポーツファーマシスト会員検索, <http://www3.playtruejapan.org/sports-pharmacist/search.php> (参照:2020年8月3日))

# 外国政府等の医薬品・医療機器等の 安全性に関する規制措置情報より－(抜粋)

2020年7月1日～7月31日分のJAPIC WEEKLY NEWS (No. 758-762) の記事から抜粋

## ■米FDA

- Class Iリコール: Arrow International Inc., モーターコネクタワイヤーが破損する可能性があるため, Arrow AutoCAT 2 およびAC3 Optimus IABPシリーズをリコール  
<<https://www.fda.gov/medical-devices/medical-device-recalls/arrow-international-inc-recalls-arrow-autocatr2-and-ac3-optimus-iabp-series-due-possible-breakdown>>
- Endologix, Ovation iX腹部ステントグラフトシステムに関するCorrection Noticeを発行  
<<https://www.fda.gov/safety/recalls-market-withdrawals-safety-alerts/endologix-issues-correction-notice-ovation-ix-abdominal-stent-graft-system>>

## ■Health Canada

- Summary Safety Review: Picato (ingenol mebutate) –皮膚癌の潜在的リスクの評価  
<<https://hpr-rps.hres.ca/reg-content/summary-safety-review-detail.php?lang=en&linkID=SSR00242>>
- Summary Safety Review: Brilinta (ticagrelor) –減少した不規則な心拍(徐脈性不整脈)の悪化, および心臓のインパルス伝達における部分的または完全なブロック(第二度および第三度房室ブロック)の潜在的リスクの評価  
<<https://hpr-rps.hres.ca/reg-content/summary-safety-review-detail.php?lang=en&linkID=SSR00241>>

## ■EU・EMA

- Referral: leuprorelin含有デポ医薬品, leuprorelinに関するArticle 31 referrals, CMDhの見解(コンセンサス)(更新情報)  
<[https://www.ema.europa.eu/en/documents/referral/leuprorelin-containing-depot-medicines-article-31-referral-new-measures-avoid-handling-errors\\_en.pdf](https://www.ema.europa.eu/en/documents/referral/leuprorelin-containing-depot-medicines-article-31-referral-new-measures-avoid-handling-errors_en.pdf)>
- Referral: Budesonide SUN, budesonideに関するArticle 29(4) referrals, CHMPにより提供された見解  
<[https://www.ema.europa.eu/en/documents/referral/refusal-marketing-authorisation-budesonide-sun-budesonide-nebuliser-suspension\\_en.pdf](https://www.ema.europa.eu/en/documents/referral/refusal-marketing-authorisation-budesonide-sun-budesonide-nebuliser-suspension_en.pdf)>

## ■EU・HMA

- ホルモン補充療法-Core SmPC, Core Package Leaflet  
<[https://www.hma.eu/fileadmin/dateien/Human\\_Medicines/CMD\\_h\\_/Product\\_Information/Core\\_SPC\\_PL/Core\\_SPCs/CMDh\\_131\\_2003\\_Rev7\\_2020\\_06\\_clean.pdf](https://www.hma.eu/fileadmin/dateien/Human_Medicines/CMD_h_/Product_Information/Core_SPC_PL/Core_SPCs/CMDh_131_2003_Rev7_2020_06_clean.pdf)>

## ■英MHRA

- 直接経口抗凝固薬(DOAC):中和剤が使用可能であることを含めた, 出血リスクに関する再注意喚起  
<<https://www.gov.uk/drug-safety-update/direct-acting-oral-anticoagulants-doacs-reminder-of-bleeding-risk-including-availability-of-reversal-agents>>
- cyproterone acetate: 骨髄腫のリスクを最小化するための新たなアドバイス  
<<https://www.gov.uk/drug-safety-update/cyproterone-acetate-new-advice-to-minimise-risk-of-meningioma>>

## ■ニュージーランドMedsafe

- Tramal (tramadol) データシートの安全性における使用上の注意と禁忌に関する更新情報  
<<https://www.medsafe.govt.nz/safety/DHCPletters/TramalJune2020.pdf>>

## ■豪TGA

- Zostavax vaccine: 安全性に関する注意喚起—免疫不全患者に使用しないことについて  
<<https://www.tga.gov.au/alert/zostavax-vaccine-0>>

## ■スイスSwissmedic

- 更新情報: paclitaxelコーティングバルーンおよびpaclitaxel溶出ステントによる末梢動脈疾患治療;死亡率の増加と関連している可能性  
<[https://www.swissmedic.ch/swissmedic/en/home/medical-devices/overview-medical-devices/information-on-specific-medical-devices/update-potentielle\\_assoziation\\_mit\\_erhoehter\\_mortalitaet-2.html](https://www.swissmedic.ch/swissmedic/en/home/medical-devices/overview-medical-devices/information-on-specific-medical-devices/update-potentielle_assoziation_mit_erhoehter_mortalitaet-2.html)>

## ■医薬品医療機器総合機構

- 医薬品に関する評価中のリスク等の情報について: アミドトリゾ酸ナトリウムなど  
<<https://www.pmda.go.jp/safety/info-services/drugs/calling-attention/risk-communications/0001.html>>

## ■厚生労働省

- インコボツリヌストキシンA製剤(販売名:ゼオメイン筋注用50単位, 同筋注用100単位及び同筋注用200単位)の使用にあたっての留意事項について  
<<https://www.mhlw.go.jp/hourei/doc/tsuchi/T200630I0040.pdf>>

JAPIC事業部門 医薬文献情報(海外) 担当

記事詳細およびその他の記事については、JAPIC Daily Mail (有料) もしくはJAPIC WEEKLY NEWS (無料) のサービスをご利用ください (JAPICホームページのサービス紹介: <<https://www.japic.or.jp/service/>> 参照)。JAPIC WEEKLY NEWSサービス提供をご希望の医療機関・大学の方は、事務局 渉外担当 (TEL 0120-181-276) までご連絡ください。

図書館で受け入れた書籍をご紹介します。

この情報は附属図書館の蔵書検索 (<https://www.japic.or.jp/iyaku/index.html>) の図書新着案内でもご覧いただけます。

これらの書籍をご購入される場合は、直接出版社へお問い合わせください。

閲覧をご希望の場合は、JAPIC附属図書館 (TEL 03-5466-1827) までお越しください。

〈配列は洋書、和書別に書名のアルファベット順、五十音順〉

書名	著者	出版者	出版年月
MIMS New Ethicals JUL-DEC 2020 Issue 33	Leilani Au ed.	MIMS(NZ) Ltd.	2020年
OTC医薬品事典<2020-21>	一般社団法人日本OTC医薬品情報研究会編集 日本OTC医薬品協会編集協力	株式会社じほう	2020年4月
医薬品添加物規格 2018追補	—	株式会社薬事日報社	2020年6月
精神科薬物療法に再チャレンジ —豊富な症例と具体的な解説で学ぶ処方の実際—	日本臨床精神神経薬理学会監修 寺尾 岳編集	株式会社星和書店	2020年7月
薬事関係法規・制度解説 2020-21年版	薬事衛生研究会編集	株式会社薬事日報社	2020年4月
和英対訳 日本薬局方外生薬規格 2018 (付・技術情報)	局外生規2018出版検討会編集	株式会社薬事日報社	2020年3月

## 情報提供一覧

2020年8月1日～8月31日提供

出版物がお手許に届いていない場合、宛先変更の場合はJAPIC 事務局 渉外担当 (TEL 03-5466-1812) までお知らせください。

情報提供一覧	発行日等	JAPIC作成の医薬品情報データベース	更新日
〈出版物・CD-ROM等〉		〈iyakuSearch〉 Free <a href="https://database.japic.or.jp/">https://database.japic.or.jp/</a>	
1. 「一般用医薬品 (経済課コード)」 2021年7月分 (HP定期更新情報掲載)	8月 1日	1. 医薬文献情報	月 1 回
2. JAPIC 「医療用医薬品集 薬剤識別コード一覧 2021」	8月31日	2. 学会演題情報	月 1 回
3. 「JAPIC NEWS」 No.436 2020年9月号	8月31日	3. 医療用医薬品添付文書情報	毎 週
〈医薬品安全性情報・感染症情報・速報サービス等〉 (郵送、電子メール等で提供)		4. 一般用医薬品添付文書情報	月 1 回
1. 「JAPIC Pharma Report海外医薬情報速報」 No.1244-1247	毎 週	5. 臨床試験情報	随 時
2. 「医薬文献・学会情報速報サービス (JAPIC-Qサービス)」	毎 週	6. 日本の新薬	随 時
3. 「JAPIC-Q Plusサービス」	月 1 回	7. 学会開催情報	月 2 回
4. 「JAPIC-Q 医療機器情報サービス」	月 2 回	8. 医薬品類似名称検索	随 時
5. 「外国政府等の医薬品・医療機器の安全性に関する 措置情報サービス (JAPIC Daily Mail)」 No.4669-4687	毎 日	9. 効能効果の対応標準病名	月 1 回
6. 「JAPIC Weekly News」 No.763-766	毎 週	〈iyakuSearchPlus〉 <a href="https://database.japic.or.jp/">https://database.japic.or.jp/</a>	
7. 「感染症情報 (JAPIC Daily Mail Plus)」 No.861-864	毎 週	1. 医薬文献情報プラス	月 1 回
		2. 学会演題情報プラス	月 1 回
		3. JAPIC Daily Mail DB	毎 日

### 外部機関から提供しているJAPICデータベース

〈株式会社ジー・サーチJDreamⅢから提供〉 <https://jdream3.com/>

〈株式会社日本経済新聞社から提供〉 <https://telecom.nikkei.co.jp/>





赤ジャピ45年の伝統を守り  
薬剤師を中心とした  
専門のスタッフが丁寧に作成しています。

好評発売中!



本書の特長

- ◆2020年6月後発品まで収録
- ◆約45年の編集実績による信頼と使いやすさ
- ◆国内流通全医薬品の最新で正確な添付文書情報をお届けします!
- ◆「薬剤識別コード一覧」を収録
- ◆更新情報メールの無料提供(要登録)
- ◆CD-ROM付
- ◆分冊にて製作(ケース入り)

Windows版

CD-ROM収録内容

- 医療用医薬品集
- 一般用医薬品集
- 薬剤識別コード一覧
- 薬価情報
- 後発品の全情報
- 添加物情報
- 最新添付文書画像(PDF)の表示機能付

要インターネット接続。医療用医薬品は週1回、一般用医薬品は月1回更新

13,000円(+税) B5判 約4,400頁(本文)

一般財団法人 日本医薬情報センター JAPIC 編集・発行  
丸善出版株式会社 発売

上記書籍の他、電子カルテやオーダーリングシステムに搭載可能なJAPIC添付文書関連データベース(添付文書データ及び病名データ)の販売も行っております。データの購入希望もしくはお問い合わせはJAPIC (TEL 0120-181-276) まで。



このコーナーは薬用植物や身近な植物についてのヒトクチメモです。リフレッシュにどうぞ!!

あざみげし

「薊芥子」と書く;Argemone mexicana L. 英語名;Mexican Poppy. けし科あざみげし属。一年生草本。アメリカ南部からメキシコの乾燥地帯原産。日本には江戸時代に観賞用として渡来。葉には鋭い棘がある。花期は夏~秋、黄色の花をつける。種子は油含有、灯油等や石鹼の材料に利用。有毒。イソキノリン系アルカロイドgalanthamine(アセチルコリンエステラーゼ阻害活性)等含有。(hy)



JAPICホームページより  
<https://www.japic.or.jp/>

HOME

サービスの紹介

ガーデン

Topページ右下部の「アイコン」からも閲覧できます。